

備前市施策評価シート

(平成22年度事業)

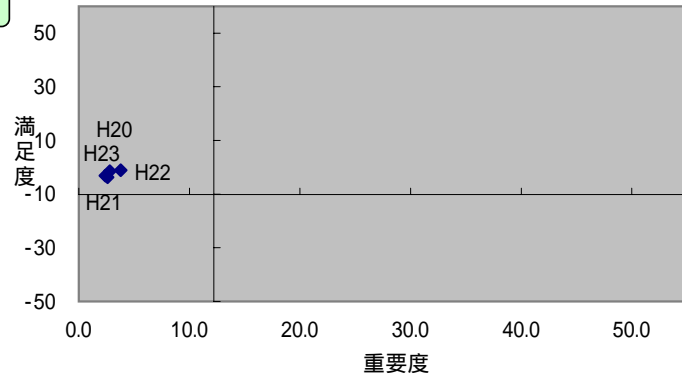
施策名 (小項目)	男女共同参画社会の形成	コード	作成者	役職	まちづくり推進課長
		05-02-02	植田 明彦	氏名	植田 明彦
			64-1823	電話	64-1823
			3.0	このシート作成に要した時間	3.0 時間

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	住民主体の協働のまちづくり
	基本施策(中項目)	ふれあい豊かなまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	市民、事業者、行政に対し、男女がより一層対等なまちづくりをすすめるため、男女共同参画に対する意識の高揚を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	憲法において個人の尊重と法の下での平等がうたわれながら、社会的につくりあげられた性別の意識や性別による固定的な役割分担が広く存在することから、性別にかかわらず、その個性と能力が十分発揮される男女共同参画社会の形成が重要である	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集及び調査研究</li> <li>広報啓発</li> <li>積極的改善措置</li> <li>推進体制の整備</li> <li>市民及び事業者に対する支援</li> <li>苦情及び相談への対応</li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H20	H21	H22	H23
重要度(%)	2.8	2.6	3.8	2.4
満足度(%)	-1.5	-3.7	-1.1	-3.1



高	<見直し領域> その施策や事業が必要か否かの検討が必要	<維持領域> 現状の方向を継続
低	<検討領域> その施策や事業の存続の検討が必要	<強化領域> 内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

調査結果に対するコメント、市民の反応等	男女共同参画社会の形成を目指し、法に基づき条例を制定し各種の施策を展開しているが、市民は男女共同参画が重要であるという意識に欠け、満足度においても非常に低い。特に60歳以上の世代においては男女共同参画を意識しているが、社会的につくりあげられた習慣の改善に対し、かなりの抵抗が見られる。
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	H28
成果指標 きらめきフェスタ参加者数	目標	人	790	790	790	H23	790
	実績	人	900	550	550	H28	790
	達成率	%	113.9	69.6	69.6	-	-
	ベンチマーク						
参考指標 各種審議会等委員への女性の登用率	目標	%	30.0	30.0	30.0	H23	30.0
	実績	%	25.4	27.7	28.9	H28	40.0
	達成率	%	84.7	92.3	96.3	-	-
	ベンチマーク		30.0	30.0	30.0		
参考指標 交流サロン(ウィズびぜん)利用者数	目標	人	2,300	2,300	2,000	H23	2,500
	実績	人	1,970	1,716	1,496	H28	2,500
	達成率	%	85.7	74.6	74.8	-	-
	ベンチマーク						
参考指標 地域や職場で男女が対等に活躍できると感じている市民の割合	目標	%	20.0	20.0	20.0	H23	20.0
	実績	%	16.5	20.6	20.1	H28	30.0
	達成率	%	82.5	103.0	100.5	-	-
	ベンチマーク						

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)												施策への 貢献度
				平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			
				直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	当初予算 (直接事業費)	-		
1 男女共同参画啓発事業	B	男女共同参画啓発事業	補助	323	5,670	0.56	349	5,671	0.57	108	7,106	0.73	358			
		啓発標語募集事業	補助	0	299	0.03	0	175	0.02	209	327	0.05		* H22終了		
		きらめきフェスタ事業	補助	744	1,882	0.20	565	1,820	0.20	399	1,527	0.20	472			
		ウィズびぜん運営事業	内部管理	31	2,176	0.22	27	1,902	0.19	60	1,192	0.12	40			
		日本女性会議参加負担金	単市	45	199	0.02	24	100	0.01	15	72	0.01		* H22終了		
		研修会等参加負担金	単市											35		
		男女共同参画基本計画策定事業	法定	0	399	0.04	0	76	0.01	10	1,014	0.11	471			
		市男女共同参画推進委員	単市	40	1,478	0.15	47	1,580	0.16	28	332	0.03	36			
		市男女共同参画推進審議会	単市	158	598	0.06	152	878	0.09	52	70	0.01	432			
		市男女共同参画推進本部	内部管理	0	199	0.02	0	199	0.02	0	158	0.01				
		積極的改善措置	単市	0	399	0.04	0	99	0.01					* H21終了		
		DV対策関係	単市							21	984	0.11	5			
犯罪被害者等関係	単市							0	98	0.01						
この施策に費やした資源(単位:千円,人)				平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			
				1,341	13,299	1.34	1,164	12,500	1.28	902	12,880	1.39	1,849			

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
各種審議会等事務局	審議会等委員への女性の登用を30%以上	審議会等委員へ女性を多く登用することにより男女共同参画社会の推進が図られる。

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
<成果指標の妥当性> 1 施策の目的・成果を表現しているか?	3	きらめきフェスタの参加人数や各種審議会等委員の女性の登用率の増加は、男女共同参画社会の進捗を測る上で、妥当である。	
<事業構成の妥当性> 2 手段は最適か?	4	関係団体や各種審議会等の協力を得ながら、各種事業を推進しており、事業構成は適している。	
<施策の有効性> 3 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	施策成果指標の達成率が低下している項目もあり、引き続き男女共同参画事業を推進し、目標を達成できるよう努める必要がある。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		各種審議会等委員への女性の登用率が目標を下回っているため、関係課へ女性の登用を促していく必要がある。	
翌年度(H24年度)の取組目標		各種審議会等委員への女性の登用を関係課へ促し、登用率の向上に努める。また、男女共同参画社会形成の重要性を認識してもらうため、その媒体の一つである、きらめきフェスタを各種団体と協働し、魅力あるイベントとなるよう努める。	
二次評価者コメント		男女共同参画の基本は市民の意識改革であり、今後とも関係機関との連携のもと啓発活動を中心に事業展開していく必要がある。	
役職	市民生活部長		
氏名	野上 茂之		
経営戦略会議決定事項			

基本施策の  
貢献度

3 中立